

学 の 道



全国学力学習状況調査号
富士市立富士川第一中学校
令和6年9月24日

4月18日(木)に、全国学力・学習状況調査を実施しました。この調査は毎年、小学6年生と中学3年生を対象に行われています。この調査の目的は、全国の児童生徒の学力、学習状況を把握・分析することや教育施策の成果と課題を検証し、改善策を図ることです。また、児童生徒への教育指導の充実に役立てることも目的の一つです。

調査内容は、国語・数学・生徒への質問です。夏休み中に調査結果が文部科学省から届きましたので、お知らせいたします。今回の結果を踏まえ、本校でも充実した学習ができるよう、授業改善や活動の工夫などをしていきます。また、御家庭での学習習慣や生活習慣も、学力向上に影響していると言われます。この結果を基に御家庭と学校とで情報等を共有しながら、生徒たちにとってよりよい学習環境を整えられればと考えています。

学力調査の結果（国語・数学）について

【国語】

分類		区分	R 6 平均正答率 (%)			全国との差 (ポイント)
			本校	静岡県	全国	
学習指導 要領の 領域	知識 及び 技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	50.0	58.3	59.1	-9.1
		情報の扱い方に関する事項	63.5	60.5	59.6	+3.9
		我が国の言語文化に関する事項	84.6	76.3	75.6	+9.0
	思考力 判断力 表現力等	話すこと・聞くこと	64.1	61.4	58.8	+5.3
		書くこと	66.3	66.6	65.3	+1.0
		読むこと	45.7	49.0	47.9	-2.2

国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「読むこと」の区分において、全国や県の数値を下回り、それ以外の区分はすべて上回る結果でした。特に「我が国の言語文化に関する事項」と「話すこと・聞くこと」においては、大幅に上回りました。日頃の授業において、言葉や語句のもつ意味を調べることや、言葉の使い方で捉え方が変わることなどを授業で聴き合い、自分の言葉でまとめてきた成果だと思われます。また、漢字の正答率も全国平均を上回っており、授業始めの漢字テストの成果が表れていました。

課題となったのが、「読むこと」と「言葉の特徴や使い方に関する事項」です。「読むこと」については「物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する」問題は、目的に応じて集めた材料を整理できないことや、伝えたいことを明確にできず、正答率は76.9%でした。この数値は全国平均より、4.5%下回っています。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、28.8%で、この数値は全国平均より26.1%下回りました。

今後の授業で、集めた材料の場面の意味をよく考え、物語の盛り上がる所、読ませ所などを整理することや、友達との考えを比較することを通して伝えたいことは何かを明確にできるようにしていきます。また、言葉の意味について辞書を引き、正しい意味を調べることを通して語彙力を身に付けられるようにしていきます。

【数学】

分類		区分	R 6 平均正答率 (%)			全国との差 (ポイント)
			本校	静岡県	全国	
学習指導 要領の領域		数と式	50.4	55.3	51.1	-0.7
		図形	49.4	43.4	40.3	+9.1
		関数	59.6	62.2	60.7	-1.1
		データの活用	50.5	57.4	55.5	-5.0

数学では、「図形」の証明問題の正答率は、令和5年度と比較して大幅に全国平均を上回りました。「点Cを線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを三角形の合同を基にして証明する」問題は、図形の定義や性質を理解し、筋道を立てて考え、証明できるようになってきました。正答率は34.6%ですが、全国平均を8.8%上回っています。また、「正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ」問題では、回転移動後も対応している頂点を空間的に捉えることができていました。正答率は73.1%です。全国平均を4.8%上回りました。今後も論理的思考力を高められるよう、授業においてグループや小集団で話し合う活動を行っていきます。

今回課題となったのが、「データの活用」です。令和5年度と比較して正答率が5ポイント下回りました。「車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ」問題では、複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することが難しかったようです。日常生活や社会の事象を考察する場面において、データやグラフを適切に読み取り、データの傾向を捉えて判断できる力が求められます。身近な生活の中にある具体的なデータから推測し、データ収集ができるよう授業改善に取り組んでいきます。

また、文字を用いた式や等式を目的に応じて変形する問題は、全国の平均並みでした。この問題に

類似する計算や式等は、練習や復習で確実に定着します。テスト前から実施している『つなプロ（自主学習）』や10月以降に実施となる『放課後学習』などを利用し、計算力等を高めてほしいです。

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 本校のよい点と課題

質問紙調査は、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査で、アンケート形式で回答するものです。

○「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が静岡県平均や全国平均よりも高い項目

○よい傾向	本校	静岡県	全国	全国との差
○学校に行くのは楽しい。	89.6%	84.9%	83.8%	+5.8ポイント
○(月)～(金)で、学校の授業以外に2時間以上勉強する。(塾や家庭教師、インターネットを活用も含む)	37.9%	33.2%	31.7%	+6.2ポイント
○(土)や(日)等、学校が休みの日に2時間以上勉強する。(塾や家庭教師、インターネットを活用も含む)	39.7%	36.6%	36.2%	+3.5ポイント
○いじめはどんな理由があってもいけないこと。	93.1%	95.9%	90.1%	+3.0ポイント
○新聞を読んでいる。	12.1%	7.4%	7.3%	+4.8ポイント
○自分と違う意見について考えるのは楽しい。	82.8%	79.1%	76.2%	+6.6ポイント

●静岡県平均や全国平均よりも低かったり、使用時間が多かったり、気になる項目

●気になる傾向	本校	静岡県	全国	全国との差
●自分には、よいところがある。	82.8%	84.6%	83.3%	-0.5ポイント
●友達関係に満足している。	89.6%	89.9%	90.1%	-0.5ポイント
●人の役に立つ人間になりたい。	91.4%	95.9%	95.2%	-3.8ポイント
●将来の夢や目標を持っている。	55.2%	66.9%	66.3%	-8.1ポイント
●地域や社会をよくするために何かしたいと思う。	75.9%	78.7%	76.1%	-0.2ポイント
●普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどのくらいあるか。	82.8%	89.8%	89.8%	-7.0ポイント
●携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っていますか。	69.0%	70.5%	72.2%	-3.2ポイント

【よい点】

調査結果から、本校の生徒は9割近くの生徒が「学校へ楽しく登校している」ことが分かりました。この数値は、ここ数年続いています。また、「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と考えている生徒が多いことが分かりました。仲間を支える温かい優しさは、富士川第一中学校のよき伝統として引き継がれています。

さらに今年度は、2つの平均値が大幅に上回りました、1つ目は、「家庭学習の時間」です。平日や学校が休みの日にそれぞれ学校外で、学習をしている時間が全国平均を上回っています。学習時間は、平日に3時間以上、学校が休みの日には4時間以上学習をしている生徒がいることが分かりました。また、部活動がある日でも学習時間を確保していた生徒は74.1%もあり、自分の進路をしっかりと見据え学校生活を過ごしていたことが伺えました。よく頑張っていると思います。

2つ目は「新聞を読む」です。全国の平均値を上回るだけでなく、令和5年度の本校の数値より、8.3%増えましたが、まだまだ、新聞を読む生徒が多いとは言えません。図書館には新聞が置いてあり、いつでも読むことができます。さらに、校長室前に新聞を掲示することや、大きなニュースとなった記事を見やすく掲示することを通して、引き続き新聞に興味をもつ生徒を育てていきたいと思っています。

【課題】

気になることとしましては、「地域や社会をよくするために何かしたいと思う」という項目が75.9%でした。令和5年度は46.6%とかなり向上しましたが、生徒達が地域を自分たちでよりよくしていく意識はまだ、低いようです。地域の方や学校運営協議会、CSボランティアの方々が学校のために備品の提供や奉仕作業をしてくださっています。今後富士川大運動会を生徒たちが運営し、自分たちで考えて協議する活動の中で、富士川地区に貢献するという意識を高めていきたいと思っています。また、ボランティア活動への参加を呼びかけますので、御家庭でも声掛けをお願いします。

「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒は、令和5年度よりも低い結果となりました。中学校を卒業した後に、『どんな大人になりたいのか』目標がもてるよう励ましていきたいと思っています。今後の進路選択をする中で、自分の長所や短所、やりがいなどについて、自分自身を見つめ直したり、何のために進学就職するのか、何のためにこの活動をするのかなどを深く考える機会を設けたりして、支援をしていきます。御家庭でも、夢や希望についてお話をしていただけたらと思います。

「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っていますか」という質問は、全国平均並みでした。この質問に関連して「放課後や週末に何をして過ごすことが多いか」という質問の順は次の通りでした。

1位：テレビや動画、ゲームやSNSを利用している(81.8ポイント)、2位：部活動に参加している(70.7ポイント)、3位：家族と過ごしている(65.5ポイント)、4位：友達と遊んでいる(53.4ポイント)、5位：家で勉強している(51.7ポイント)という結果でした。専門家より、スマホやゲームのやり過ぎは、ネット依存症にもつながり、端末から離れられなくなることやSNS上のトラブル等で学習に集中できなくなる危険性があるという指摘があります。御家庭において端末を扱うときの約束やルールを改めて御確認いただき、学習に集中できる環境が整えられるよう御協力をお願いします。